

アニマルウェルフェアに配慮したカリフォルニアアシカの飼育環境変更と
行動変化

○福永芳樹，塚田仁次，中嶋千夏，秋吉未来
(マリンワールド海の中道)

マリンワールド海の中道ではカリフォルニアアシカ 5 頭（雄個体 1 頭，雌個体 4 頭）とオタリア（雌個体 1 頭）をショー観覧席横のアシカ獣舎（陸上 9 m²，プール 1.5 m²）に単体もしくは 2 頭で飼育をしながらショー運営をしてきた。アシカ獣舎ではアニマルウェルフェアに配慮した広さとは言えないため，2025 年 10 月からアシカ獣舎に隣接するアシカ展示プール（陸上 11 m²，プール水量 140 m³，10.1m×6.5m，水深 2.25m）でカリフォルニアアシカ雌個体 4 頭を同時飼育し，日中の行動に多様化が確認できたので報告する。

展示プールで同時飼育をした個体は 22 歳の 2 個体（以下 A 個体、B 個体とする）と 13 歳の 2 個体（以下 C 個体、D 個体とする）である。アシカ獣舎内では 4 頭ともプール内を同一方向に回り，飼育者を見るだけであった。展示プールには以前よりショー以外の時間に 1~2 頭短時間収容し，夜間はアシカ獣舎に収容していたが，1 日のうちで大半を展示プールで生活するように環境を変更した。行動の観察方法はスキャンサンプリングとし，30 秒ごとの瞬間サンプリングを 10 分 1 セットで行った。年齢が同じ 2 個体での収容時，A 個体は上陸している時間，B 個体は水中で浮いている時間がともに約 40%であった。C 個体，D 個体はほとんどの時間を遊泳して過ごしていた。10 月下旬からは職員が観察できる日中に 4 個体の同時飼育を実施した。同時飼育当初は威嚇行動などが見られたが，一時的なもので，数日で威嚇行動は観察されなくなった。4 頭同時飼育後は A 個体，B 個体の行動に顕著な変化があり，A 個体は上陸時間が 3%，B 個体は浮いているだけの時間が 10%と減少し，C 個体，D 個体と鼻を突き合わせたり，互いの腰部付近に鼻を付けたりするなどの行動が頻繁に観察できた。C 個体，D 個体も遊泳だけではなく一時的な上陸やジャンプ，遊泳速度の上昇など行動の多様化が観察できた。

今後はよりアニマルウェルフェアに配慮した飼育を心掛け，動物たちの生活の質が向上するように取り組んでいきたい。